

奨励賞

中小企業区分

株式会社カンサイ

※事業者の情報は応募時点(2018年)

所在地	広島県広島市佐伯区五日市町石内 460 番地
業種	廃棄物処理業
社員数	44 名
受賞歴	2016 奨励賞
ウェブサイト	http://www.ekansai.co.jp/

「人と人 人と自然との調和」を大切にできる社員教育

取組の目的

私たちカンサイの企業理念は「全従業員の物心両面の幸せを追求するとともに 併せて人類と自然(全人類 大自然)との調和を大切にする」です。この企業理念の実現に向け「カンサイ理念手帳」を作成して共通認識を図り、自ら考え行動できる社員教育に取り組んでいます。また、エコアクション21を認証取得して CO₂ 排出抑制に取り組んでいます。以上の取り組みを円滑に行うために、内部コミュニケーションに力を入れて取り組んでいます。

取組の実績

① 「カンサイ理念手帳」による人と人との調和

2013 年からは社員教育に力を入れ毎月外部講師を招き社員教育を継続開催しています。その社員教育の中でも、ここ 2 年は社員の共通認識を図るために、「カンサイ理念手帳」を作成しました。この理念手帳は社員研修で社員が議論を積み重ねて 2017 年に完成させました。この理念手帳を用いて、記載されている内容の意図することは何かを議論して共通認識の元で仕事ができるよう取り組み、一日の仕事終わりには、一項目読み上げて理念手帳に書かれているような

【カンサイ理念手帳（フィロソフィー）とは】
・フィロソフィーとは、日本語で『哲学』のことです。
私たちカンサイは、「人と人との調和 ・人と自然との調和を大切に」して、全従業員の物心両面の幸せを追求する企業です。

【取組み】
終礼時に一日一項目を読み上げて、記載されているような行動ができていたか、また、日々の気付きを共有しました。

【今後】
50期に完成した理念手帳の内容を全社員で共有し、良いことがあっても悪いことがあっても、カンサイ社員としての判断基準にしていきます。
この理念手帳はこれで完成ではなく、日々の仕事を通じて得た新しい気付きとともに、今後の目標に向かって社員自らが修正・追加を重ね進化させていきます。

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

行動ができたかを反省し、今後はどう行動するべきかを話し合っています。



本社工場終礼の様子

② CO₂ 排出量抑制による人と自然との調和

環境負荷の低減では、各部署単位で CO₂ 排出目標を立て進捗状況をネットワーク上で共有しています。PDCA を繰り返し行い環境負荷の低減に努めています。社員の自主性を育むために、CO₂ 排出量は組織全体で目標を掲げて取り組むのではなく、部署単位で取り組み、組織全体の目標にしています。そのため、各部署で一年間の取り組み、実績と評価、今後をきめ細かく把握して、次年の活動計画を社員で考え実行して、毎年環境活動レポートに細かく掲載し発行しています。

③ 内部コミュニケーションの充実

社員研修旅行を企画、実施しています。今年はしまなみ海道を 19km ウォーキングして仕事のことやプライベートのことなど会話も弾みコミュニケーションが図れました。その他には社員の家族を招いて家族会を企画したり、年 2 回社内報を作成して、社員の各家庭に郵送してコミュニケーションの向上を図っています。

成果・課題

① 「カンサイ理念手帳」による人と人との調和

理念手帳の作成にあたり、多くの時間を費やし議論を重ねた結果、作成に携わった者の間では、互いの理解が深まり、他部署から見たムダな仕事を指摘できるようになり、仕事の効率化ができてムダな残業が減りました。

また、売上目標を 3 年連続で達成しました。しかし、全社員まで波及しているとはいえませんので、日々の小さな取り組みを継続していきます。

② CO₂ 排出量抑制による人と自然との調和

環境負荷の低減では、CO₂ 排出量は毎年減少し続けています。今年も全年対比で 2.4%と削減できました。しかし、CO₂ 排出量の大きなウエイトを占めている、本社工場が長年の取り組みと設備投資によって削減が厳しくなりつつあります。また、業務部は特殊車両による仕事が増加し、ここ数年前年実績を下回ることが少なくなってきました。

③ 内部コミュニケーションの充実

以前より内容も充実してきていますし、継続して取り組むことでコミュニケーションも向上してきています。

今後の改善

① 「カンサイ理念手帳」による人と人との調和

「カンサイ理念手帳」を用いて全社員が共通認識で仕事ができるように、日々の積重ねと社員研修を継続して、幅広く社員の意見を吸い上げる体制づくりが必要です。

② CO₂ 排出量抑制による人と自然との調和

環境負荷の低減では、組織全体で CO₂ 排出量を抑制できるように各部署で PDCA サイクルをこまめに行い削減に努めることが必要です。

遠きをはかる経営を行っていくには、以上のような小さなことの積み重ねが大切であると考えています。

関連補足情報

環境活動レポート第 51 期

<http://ea21.jp/list/pdfn/0004647.pdf>

審査委員会からの講評

人類と自然との調和を大切にするという企業理念のもとで、カンサイ理念手帳を社員間での議論によって作成したことは素晴らしい評価ポイントである。自ら考えて行動するような社員教育は良いモデルケースになりうる。このことにより事業への好循環も見られた。また、エコアクション 2.1 で CO₂ 負荷削減を進めるとともに、各部署単位で CO₂ 排出目標を立てて進捗状況をネットワークで共有すること、家族会を作って社員家族を含めた人材育成とコミュニケーション向上することを高く評価したい。今後もこのような主体性を発揮した取り組みを継続していただきたい。